

国立病院機構熊本医療センター

No.243



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501 (代)  
FAX (096) 325-2519  
連携室直通 TEL (096) 353-6693  
連携室直通 FAX (096) 323-7601

## 平成29年度 第1回 開放型病院運営協議会が開催されました

第1回開放型病院連絡会は9月4日（月）に決定しました！

7月18日（火）、当院会議室にて今年度第1回目の開放型病院運営協議会が開催されました。協議会には、外部委員の熊本市医師会会長の福島敬祐先生（当協議会委員長）、同医師会副会長の園田寛先生、同医師会理事の田中英一先生、家村昭日朗先生の4名にご出席いただきました。高橋院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に続き議事に入りました。議事は事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況についての報告がありました。続いて、開放型病院連絡会の開催について協議が行われました。その結果、平成29年度第1回開放型病院連絡会を平成29年9月4日（月）午後7時より、ホテル日航熊本5階阿蘇の間にて開催することを決定しました。開放型病院連絡会は総会と意見交換会の2部構成となっています。総会では、症例の呈示、地域医療連携室及び紹介予約センターからのお知らせ、看護部・事務部からのお知らせを予定しています。その後会場を移し意見交換会を行います。この連絡会を機に地域の医療機関の皆さまと益々の連携強化を図りたいと考えています。どうぞ医師、メディカルスタッフ、看護師、MSW、事務職他多くの皆さまのご参加を賜りますようお願い申し上げます。



熊本市医師会会長 福島敬祐先生のご挨拶

（管理課長 福田信也）

### 平成29年度第1回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成29年9月4日（月）午後7時～9時

場所：ホテル日航熊本

—内 容—

#### （1）開放型病院連絡会総会（5階 阿蘇の間）

- 1) 症例の呈示 「精神科の紹介」  
「脳血管内治療について」
- 2) 地域医療連携室からのお知らせ
- 3) 紹介予約センターからのお知らせ
- 4) 看護部からのお知らせ
- 5) 事務部からのお知らせ

精神科部長	山下建昭
脳神経外科医長	中川隆志
地域医療連携室長	渡邊健次郎
地域医療連携副室長	菊川浩明
看護部長	佐伯悦子
事務部長	内田正秋

#### （2）意見交換会（5階 阿蘇の間）

【連絡先】国立病院機構熊本医療センター管理課 電話 096-353-6501 内線2311（福田・毛利）

#### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

#### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

#### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 「日常診療での病診連携」

明午橋内科クリニック

院長 森下 祐子



白川にかかる電車通りのひとつ山側の、明午橋のそばで平成25年より内科・消化器内科クリニックをしています森下です。いつもお世話になっていますが、「登録医の声」に呼んでいただきありがとうございます。国立医療センターは、専門性の高い各科と救急分野がともに尊重して高いレベルの医療を常時維持されていて、詳細に検討をお願いしたい方にも、重篤な状況で急ぎの治療をお願いしたい方にもともに頼れる医療機関として、感謝申し上げます。

近日は医療に対する感覚も多彩です。症状が重くても早めの治療や生活習慣の改善を面倒と感じる方や、症状が軽微でも生活環境の影響でよりつらく感じる方もいます。不安から大切な時間や金銭を投じる場合もある現状です。その中でここが必要と思われる部分を切り取って、医療センターの専門性を活かした診療科にご依頼しています。ご受診後はどの方も知識を深めたり先進的な治療の提案を受けたりと、生涯ともに過ごす持病に前向き臨まれています。

また中には、来院時にすでに重篤な病状の方もいます。長年治療を重ねて、家族への遠慮もあって些細なことでは受診しない方々です。その場合も医療センター救急外来で、多忙な中、受け入れ頂きありがとうございます。入院後病棟まで簡便な手順で診に行けるのもありがたいです。連携室でカルテを閲覧し、検査結果を確認後に病室でお顔を見ると、安堵すると同時に、緊急治療いただいた先生方・スタッフの方々と、この仕組みの維持に尽力されている皆様の恩恵を感じて深く感謝いたします。

私事ですが、何度も入院治療をしたことがあり、その度に、次からこそ無理を言っている患者さんにも優しくしようと何度も決心して、何度もうまくいきませんが・・・今後もよりスムーズに連携できる診療に、心掛けていきますので、どうかよろしくお願いいたします。

## 熊本大学大学院生命科学研究部泌尿器科学教授 神波大己教授の特別講演が行われました

熊本大学泌尿器科の第5代教授として着任されました神波大己（かんば ともみ）先生より『泌尿器専門医以外にも役立つ改訂前立腺癌ガイドラインのポイント』と題して講演会が開催されました。2016年の前立腺癌ガイドラインを中心に前立腺癌の疫学や予防、検診、治療後の定期フォローなどデータを示しながらわかりやすく講演頂き、泌尿器科医以外の方々にも十分にご理解いただけたのではないかと思います。神波教授は京都大学准教授からのご昇任ですが、物腰も柔らかく、関西人らしくユーモアに溢れた先生です。今後の熊本の泌尿器科会をリードされていくことが十分に予見できる講演内容ではなかったかと思えます。前立腺癌は今後も高齢化により増えていく疾患であり、われわれ専門医のみではかかえきれない状態となっていくことが予想されています。熊本県ではがん診療連携



特別講演会場の様子

パス『私のカルテ』が運用されているため、かかりつけ医の先生方との医療連携がさらに広がるにはどうしたらよいか、神波教授の講演を拝聴しながら改めて考えました。  
(泌尿器科部長 菊川浩明)

## 平成29年度 第1回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会

平成29年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が8月1日（月）午後7時より、熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、渡辺猛士副会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長が出席いただき、当院より高橋院長、大塚副院長、清川副院長、渡邊統括診療部長、北田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

宮本会長、高橋院長からあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介率ならびに紹介数について、次いで当院の歯科救急医療ならびに今年上半期の歯科口腔外科救急症例数と内容の報告を行いました。

本年度の歯科医師研修についても例年のように、医歯連携セミナー、救急蘇生講習会、摂食嚥下リハビリ



田中弥興副会長のご挨拶

テーションセミナーと同講演会が当院研修センターで行われることを報告致しました。続いて大塚副院長から、平成29年度第1回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が9月4日（月）午後7時から、ホテル日航熊本にて開催されることが案内されました。

そのほか、歯科口腔外科初診患者の予約センター利用が開始されることが案内され、がん連携を中心とした医科歯科連携や、今後の地域医療連携について議論が行われました。ますますの連携強化を確認し、田中弥興副会長のご挨拶で閉会となりました。

（歯科口腔外科部長 中島 健）



連絡協議会の様子

## アドバイサリー・コミティを開催しました

去る7月14日（金）、本年度第1回目のアドバイサリー・コミティを研修室2で開催いたしました。

アドバイサリー・コミティは、地域の急性期中核病院としての当院の診療機能の充実と当院の理念である「最新の知識・医療技術と礼節をもって、良質で安全な医療」の推進を図ることを目的に、外部委員の医師の皆様から忌憚のないご意見を頂戴する会議です。

今回、5名の外部委員の先生方にご出席をいただき、貴重なご意見を伺いました。病院側は、高橋院長をはじめ幹部職員、各診療科の部長又は医長、その他事務局の総勢26名が参加しました。

話題提供として、山下精神科部長より「精神科の紹介」、中川脳神経外科医長より「脳血管内治療について」についてお話を頂きました。その後、意見交換が行われ、外部委員の皆さまから、「共同診療時の対応」、「紹介状の取り扱い」、「紹介患者の返書」、「電子カルテの活用」、「電話での対応」、「精算機の操作対応」、「顔の見える連携」等についてのご意見を頂きました。



アドバイサリー・コミティの様子

その他にも多くの貴重なご意見、ご指導を頂きました。頂戴しましたご意見につきましては、今後の参考にさせていただき、診療機能のさらなる充実を図りながら、病院運営に活かしてまいりたいと思います。外部委員の先生方におかれましては、診療のお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。

（管理課長 福田信也）

## 第4回指導医・研修医宿泊研修が行われました

平成29年8月4日（金）5日（土）に、指導医20名と研修医36名および臨床研修管理委員会メンバーが参加して、第4回指導医・研修医宿泊研修が阿蘇熊本空港ホテル・エミナースで開催されました。

1日目夕方は、東京医療センター教育研修部の尾藤誠司先生による「どんな医者になりたいか？“もはやヒポクラテスではいられない”時代の医療者像」と題する基調講演が行われ、その後の懇親会でも尾藤先生が研修医の質問に答えるQ&Aがあり大変盛り上がりました。2日目午前中は、当院の研修に関する5つのテーマにわかれて、KJ法と順番ブレインストーミン

グループワークの様子



参加者全員で記念撮影

グ法を用いたグループワークが行われ、午後からは発表と討論が行われました。研修医1年生と2年生、そして指導医が協同して当院の研修システムを見つめ直す、大変有意義な機会となったと思います。今年は模造紙に作りあげたグループワークの成果を8月20日まで医局に掲載して誰でも閲覧できるように致しました。

せっかくの週末にもかかわらず多数御参加いただきました指導医と研修医の方々に深く感謝申し上げます。今後、この議論の内容をしっかりとフィードバックして参りたいと存じます。（教育研修部長 富田正郎）

## 第15回熊本PEECコースが行われました

去る7月16日（日）、第15回熊本PEEC（ピーク）コースならびに第1回熊本PPST（ピースト）コースが開催されました。PEECコースは午前8時から12名、PPSTコースは午後1時から8名が参加され、タイトなスケジュールの中、2名の方は両コースを修了されました。日本臨床救急医学会が監修する教育コースであるPEECコースですが、救急医療に携わる、精神科を専門としないスタッフ向けに、過換気、自傷、不穏、違法薬物といった4症例について、グループワーク（GW）を通じて基本的な知識や対応法を学ぶというものです。医師、看護師、救命士、薬剤師、心理士、



熊本PEECコース参加者



日野耕介先生と記念撮影

SWなど、多彩な職種がGWを行うことで、参加者にとっては新たな視点を得られたり、これまで使えていなかったリソースを再認識したり、実りの多いものになっています。

今回は、前日となる15日に、横浜市立大学精神科から日野耕介先生をお迎えしての講演も企画し、こちらも和気あいあいとした雰囲気で行われることが出来ました。ロールプレイ試技を通じ、PEECスキルを体で覚えてしまおうというPPSTコースの次回開催は未定ですが、熊本PEECコースは9月10日、11月12日などを予定しております。先生方の奮ってのご参加をお待ちしております。（精神科医長 橋本 聡）

## カウニッツ教授の研修を終えて

こんにちは、研修医1年目の榎木です。本年度も7月18日～24日にかけて、UCLAからカウニッツ教授をお招きして北米型レジデント研修が行われました。研修医は各々症例のプレゼンテーション・回診を英語で行い、また3回にわたりカウニッツ教授による英語の講義が行われました。日本語での発表の経験もほとんどない1年目にとって、英語でスライドと原稿を作るのは大変でした。ですが今回の研修を通じて英語でのプレゼンテーションのルールを知ることができ、貴重な経験となりました。日本とは現病歴のとらえ方が違い、最初の数枚のスライドのうちに重要な情報はすべ



カウニッツ教授と記念撮影

で載せることなど様々な違いを学ぶことができました。また1年目は芳賀先生宅でカウニッツ教授を囲んでバーベキューを行いました。発表の時よりも打ち解けた雰囲気の中、みんなで楽しく盛り上がる事ができたと思います。

今回の研修を通じ、今まで感じていた医学英語への抵抗を解消することができました。また英語でのプレゼンテーションの機会があるので、この経験を活かしさらにレベルアップしていきたいです。

(1年次研修医 榎木愛里)



プレゼンテーション優秀者が表彰されました

## ボランティア活動を通して学ぶ —地域の皆様に感謝いたします—

本校の学生は、毎年地域や施設で催される行事にボランティア活動として参加させていただいています。主催者の方々には学生に何かとお気遣いいただき、感謝申し上げます。また、来場されている方々は、活動している学生たちに対して「気持ちが若返る」「いつも楽しみにしている」等お声をかけてくださり、学生たちに笑顔で接して下さいます。

学生は主催者の方々と一緒にイベントの運営に携わったり、催し物の一部として踊りを披露したりしています。これら様々な活動を通して、学生たちは初対面の方に挨拶したり、案内をしたりして人と関わるために大切な姿勢や態度を学んでいます。さらに、日ごろ同



新町地蔵祭りでソーラン踊りを披露しました



地域のお祭りで店員のお手伝いをしました



患者さんとゲームを楽しんでいます

世代との関わりが多い学生たちにとって、ボランティア活動で子どもから高齢者まで様々な世代の方と交流することができ、看護の対象を理解するための貴重な経験となっています。私たち教職員は微力ではありますが、学生たちがたくさんの方を学び、地域貢献できるよう支援していきたいと思っています。

今後とも看護学生をどうぞよろしく願いいたします。  
(看護学校教員 岩根知恵)

## リソースナース(認定看護師等)が26名になりました

本邦では、看護実践の質向上を目指して(公)日本看護協会が資格認定制度を運営しています。資格には「専門看護師」「認定看護師」「認定看護管理者」の3つがあります。看護部では良質な看護の提供のために、当院に必要な分野の資格取得者の増員を図ってきました。今年の7月に救急看護・認知症看護・がん放射線療法看護・看護管理の認定者が誕生し合計26名になりましたのでご紹介いたします。

(看護部長 佐伯悦子)

表. 資格所得者の推移

年度	専門看護師数	認定看護師数	認定看護管理者数	合計人数
25年度	2	7	1	10
26年度	2	9	1	12
27年度	2	11	1	14
28年度	2	16	2	20
29年度	3	21	2	26

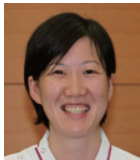
### 救急看護認定看護師 今村祐太

生命の危機的状況にある患者に対し、限られた身体症状や徴候から緊急度・重症度を判断し、“生活を支える看護”を実践したいと考えています。救急看護を皆さんと取り組んで行けたら幸いです。宜しくお願いします。



### 救急看護認定看護師 中嶋美佳

生命の危機的状況にある患者に対し、救急看護技術の提供、またその家族に対し精神的ケアを行い、救急看護の質の向上に努めて参ります。まだまだ未熟ですが、宜しくお願い致します。



### 認知症看護認定看護師 志水直子

認知症や認知機能が低下した患者さんが、上手く伝えることができない身体や心の苦痛をキャッチして、治療や看護を円滑にすすめることが出来るよう皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。よろしくお願いします。



### がん放射線療法看護認定看護師

#### 大平ちえみ

がん放射線治療の効果を最大限に得られるよう、放射線療法の治療過程により生じる患者と家族への身体、心理、社会的問題の解決をチームの一員となって支援できるよう頑張りたいと考えています。



【新しい認定看護師を紹介します】

## メンタルヘルス対策研修会が行われました

7月10日(月)と18日(火)、当院職員を対象にした「労働安全衛生法に基づくメンタルヘルス対策研修会」を開催しました。みなさまご存知のように平成27年12月1日にストレスチェック制度が施行され、国立病院機構熊本医療センターでも2016年度、そして本年度も全職員を対象にストレスチェックを実施しています。

この研修会は①職員にストレスチェック制度を知ってもらうこと、②2016年度の実施概要の報告、③職場におけるストレスとその対処法の知識習得、④院内のサポート体制の告知の4つを目的としており、また、厚生労働省のメンタルヘルス対策の基本方針である一次予防(メンタルヘルス不調の未然防止)も兼ねています。

両日とも勤務時間内での開催でしたが業務中にも関わらず看護部を中心に多くの職種から参加があり、メンタルヘルスへの関心の高さが窺えました。職員へのこころの健康のサポートは心身の健康だけに留まらず、質の高い医療を提供することに繋がり、患者様にも還元されます。今後もより良い医療を提供するためにメンタルヘルス対策やストレスマネジメントに関する研修を定期的に行っていきたいと思っています。

(心理療法士 濱野 学)



メンタルヘルス対策研修会会場の様子

# 二の丸かんかんカフェを開店しました



7月22日、第6回「二の丸かんかんカフェ」を開催しました。この会は肝疾患患者や肝臓病に関心のある方を対象に、参加者同士の交流の場として年1回「世界肝炎デー」と同時期に開催しています。当日は治療終了後の方、現在治療中の方、経過観察中の方、患者家族など25名の方にご参加いただきました。

杉医師による講義  
グループワークの様子



前半は当院消化器内科 杉和洋医師より肝炎治療の助成金制度や肝炎検査、最新の治療法についてミニレクチャーを行い、後半は参加者同士の情報交換の時間とし、グループ毎にフリートークを行いました。治療の経験談、薬や検査に関する疑問、日常生活の悩みなど様々な話題が飛び交い、活発なディスカッションが行われました。スタッフもグループに加わり、普段の診療の中では聞くことのできない患者・家族の生の声を聞くことのできる良い機会となりました。肝疾患の治療が著しく進歩している昨今において、「二の丸かんかんカフェ」は参加者・スタッフともに有意義な時間を過ごすことのできる会です。治療の理解と正しい知識の普及、そして安心して医療を受けていただく環境作りの一環として今後も続けていきたいと思っております。



“二の丸かんかんカフェ”  
スタッフ

(主任栄養士 北向由佳)

## 病院増改修整備工事の進捗状況

平成29年6月から、本格的に始まった準備工事（解体工事）は、建物及び基礎の解体、仮設外壁の設置、既存棟（病院本体）の外壁・庇（ひさし）等の解体も無事に終了しました。大きな遅れもなくStep 2が完了する見込みです。9月には文化財発掘調査も終了予定で、Step 3（増築棟新築）に向けて進んでいます。

(業務班長 朝重久緒)

### <今後のスケジュール予定>

- ・研修棟、売店食堂棟解体：Step 2 平成29年4月～平成29年8月
- ・増築棟新築工事：Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- ・外来棟改修工事：Step 4 平成30年12月～平成31年8月

(※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。)



## 地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしく願い申し上げます。

地域医療連携室長 渡邊健次郎

地域医療連携室直通電話

096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM 8:30～PM 17:00



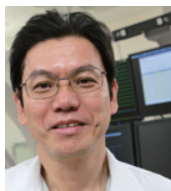


No.240

循環器内科 (No.20)

## 最近のトピックス

### 急性心筋梗塞による 院外心肺停止症例の検討



循環器内科部長

藤本 和輝

突然死の60%以上が心臓に原因があり、その中でも急性心筋梗塞は、発症後病院に到着するまでに約40%が死亡します。今回、急性心筋梗塞が原因で院外心肺停止となった症例を検討してみました。

2012年4月1日から2017年3月31日の5年間に急性心筋梗塞で当院を受診した789例中、院外心肺停止が37例でした。全体の4.7%、男性：27例、女性：10例、平均年齢：65.8±12.0歳でした。

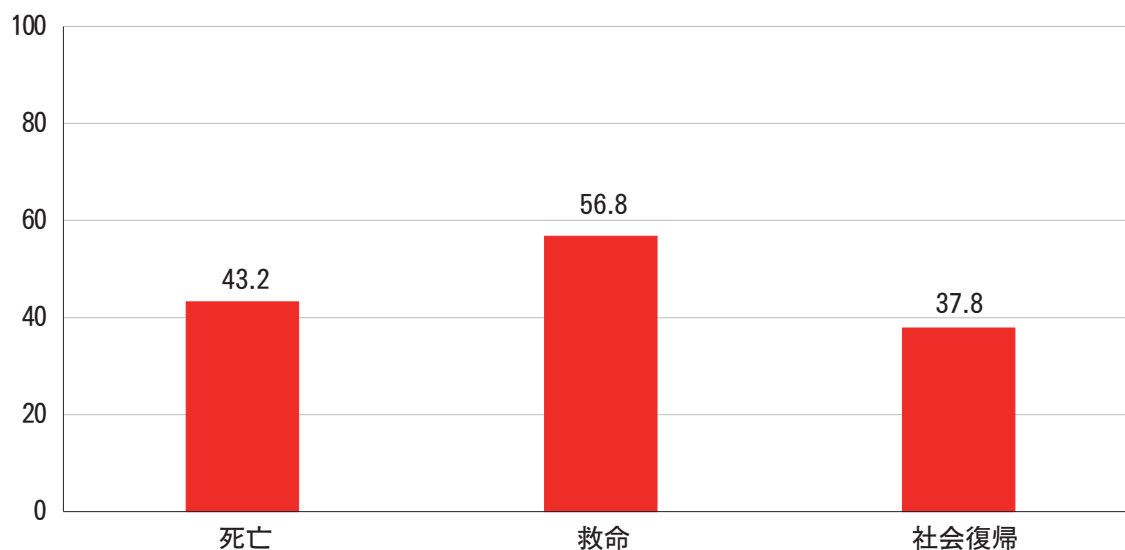
死亡率：43.2%、救命率：56.8%、社会復帰率：37.8%でした（図1）。2015年の総務省統計では、一般市民が心原性心肺停止を目撃した症例で、死亡率：87.0%、救命率：13.0%、社会復帰率：8.6%でしたので、

非常に良好な結果でした。

死亡例と救命例を比較してみました。発症直後：76.5% vs 90.05%、発症直後の目撃：76.5% vs 100%、直後の心肺蘇生術の施行：11.8% vs 90.0%でした。この結果から明らかなように、発症直後に目撃され、直ぐに心肺蘇生術が施行された症例が、予後が良いことがわかりました。同様に、救命例と社会復帰例を比較しましたが、明らかな差を認めませんでした。

また、男性と女性を比較してみました。一般的に急性心筋梗塞は、男性より女性の発症年齢が約10歳高く、死亡率が高いのですが、心肺停止例では、男性：65.6±11.4歳、女性：66.5±14.1歳で差がありませんでした。発症直後、発症直後の目撃、直後の心肺蘇生術の施行に差を認めませんでした。女性の死亡率が、男性の死亡率に比べて高かったです（60.0% vs 40.7%）。

以上のような結果から、救命率、社会復帰率は、比較的予後が良かったのですが、社会復帰率を良くするために、さらなる一般市民の教育、啓蒙（心肺蘇生術、AED）、社会環境（AEDの配備）を行い、発症直後から心肺蘇生術を行う社会環境作りが必要です。



(図1)





いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

## シリーズ116回

# 精神科新人看護師の希死念慮患者への 対応力向上を意図した教育的介入の有効性

7南病棟看護師 深水綾菜 前田果歩里

A病棟は年間500名を超える自殺企図患者を受け入れています。そのため、患者への対応力の向上が必要となります。ところが経験年数が浅い看護師は、知識やコミュニケーション能力が未熟であるがために、声かけに自信が持てず、より一層自分の自殺企図患者に対する対応の困難さが出現しています。しかし、現時点で、新人看護師に対して希死念慮をもつ患者の対応に関する具体的な教育プログラムはありません。そこで希死念慮をもつ患者の対応の困難さを軽減させるために、教育的介入が必要と考え、ロールプレイング法を用いてこの研究に取り組みました。

【目的】 A病棟に勤務する新人看護師に対しロールプレイング法を用いた教育的介入を行うことで希死念慮を有する患者への対応力向上をはかる。

【方法】 研究対象：A病棟に勤務する新人看護師4名。研究期間：平成27年11月～12月 研究方法：希死念慮を有する疑似患者の症例を作成し、新人看護師が看護師役、先輩看護師が患者役となりロールプレイングを行います。ロールプレイングを動画に撮影し、ロールプレイング後に動画を観ながらフィードバックします。同日中に2回目のロールプレイングを行い、新人看護師の言動がどのように変化したか評価します。

【結果・考察】 ロールプレイングでの結果について、個人差はありますがフィードバックし知識を増やすことで言動に変化が見られました。(図1)

### 【結論】

1. 動画を観ながらフィードバックしたことで、新人看護師が自分の対応を客観的に評価することができ、自分の傾向を知り行動の変化に繋がりました。
2. フィードバックで具体的な指導を行い、かつロールプレイングを2回続けて実施したことで具体的な患者対応を会話の中で活かすことに繋がりました。

【まとめ】 今後は、実際の患者対応の場面で活かせるか評価するとともに、ロールプレイングでの学びが持続した効果をもたらしているか検証すること、教育に携わるスタッフが統一した教育を行えるプログラムを作成することが望まれます。

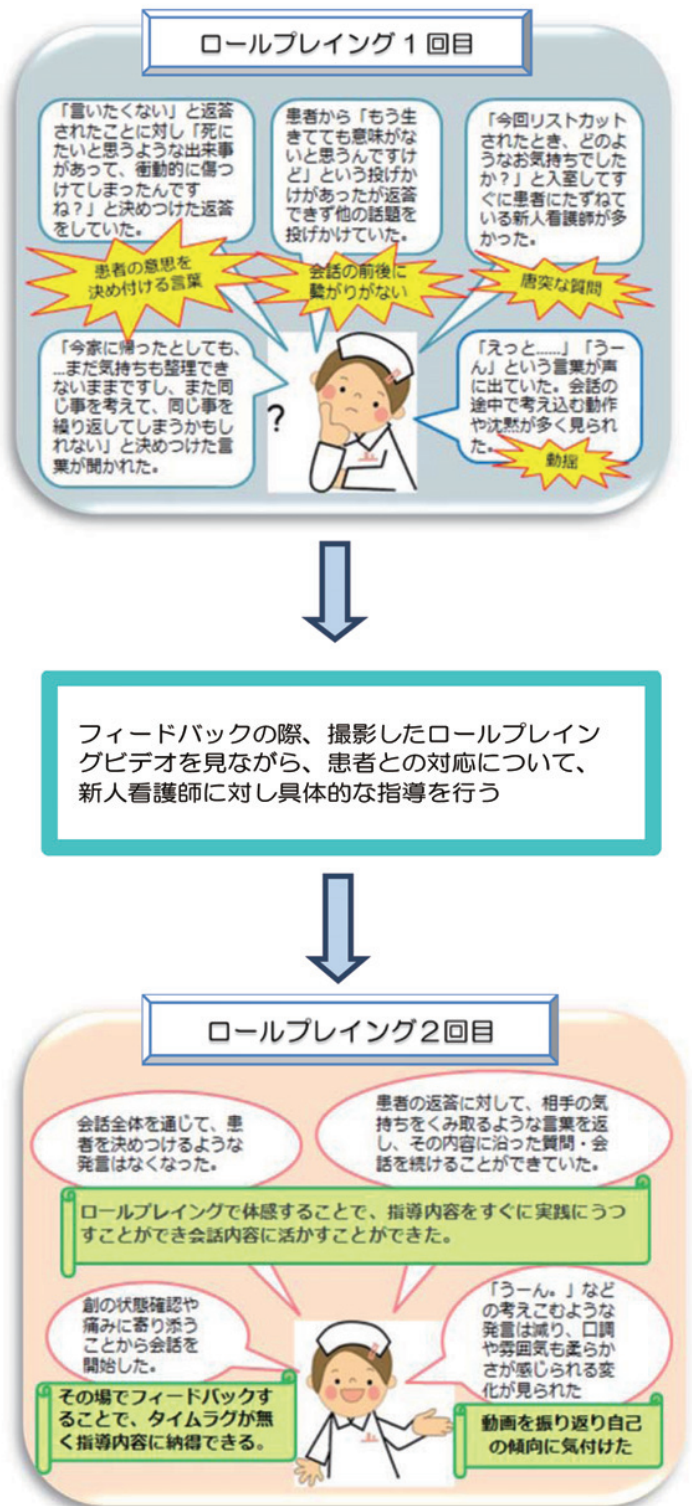


図1 ロールプレイングの結果

## 研修医レポート

### 臨床研修医

かみや ちはる  
神谷 千晴



こんにちは。研修医1年目の神谷千晴と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から4カ月がたちますが、まだまだ慣れないことばかりです。

私は、4月に腫瘍内科から研修をスタートいたしました。はじめは、電子カルテの使い方やシステムの理解で精一杯でしたが、指導医の先生やスタッフの皆様方のおかげで何とか少しずつ慣れるようになってきました。腫瘍内科では腫瘍の随伴症状やその他の合併症で苦しむ患者様のケアや、腫瘍に対する化学療法を学

ばせていただきました。今後どの診療科に進んでもがん患者さんと向き合う機会は必ずあると思うので、非常に有意義な勉強をさせていただいたと思っております。指導医の先生の患者様への接し方がとても丁寧で、今後見習っていきたいと思いました。

2ターム目に回らせていただいた腎臓内科では、患者さんの複雑な病態を理解することに苦しみました。自分の勉強不足を痛感し、日々いろいろなことを吸収していかなければならないと痛感いたしました。しかし、少しずつですができることが増えていき、患者様から感謝の言葉やお手紙をいただいた時は、疲れも吹き飛ばすような嬉しさとやりがいを感じました。これからも少しでも患者さんに貢献できるように頑張りたいと思います。腎臓内科はシャント手術やPTAなどの手技も多く、非常に充実した7週間になりました。

現在は消化器内科を回らせていただいております。これからもご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、精一杯頑張りたいと思います。ご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

### 臨床研修医

おおふち たかし  
大淵 昂



こんにちは。研修医一年目の大淵昂と申します。宮崎大学医学部を卒業し、四月から二年間熊本医療センターで初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から5ヶ月が経ちますが、まだまだ診療やその他業務についてもわからなことが大変多く、スタッフの皆さんに迷惑をかけながら精一杯日々を送っています。

私は、4月に循環器内科から研修をスタートいたしました。正直、最初は電子カルテの使い方、薬の処方、検査のオーダーなどを覚えることでいっぱいでした。それに加え、オンコール体制で緊急心臓カテーテル検査に備える日々で緊張の毎日でした。何もわからない自分に、指導医をはじめスタッフ、研修医の先輩方が

熱心に指導してくださり、何とか日々の業務をこなすことができました。医師になることは、医学の知識をつけること、手技を身につけることだけではないのだなと痛感した4、5月でした。4、5月で指導医と立てた目標を達成できなかった場面が多々ありました。そのリベンジとして、来年も循環器科を回って目標を達成したいと思います。

次にローテートした呼吸器内科では、抗菌薬の使い方、人工呼吸器管理など、これからどの科に行っても役立つ実臨床に即したエッセンスを指導医に教えていただきました。患者の状態、疾患背景に合わせて治療法を選択することが重要であると感じる2カ月でした。

現在は、外科をローテートしています。外科では術前、術後管理、術中の助手など、とても充実した日々送っています。まだまだわからないことばかりですが、常に情熱をもって日々の診療に努めていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

# 研修のご案内

## 第4回 診断と治療－最新の基礎公開講座－ [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年9月9日(土)15:00～17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：魚返外科胃腸科医院 院長

魚返英寛 先生

演題：「CKD診断のために－血尿・尿蛋白の基礎－」

- |                |                       |         |
|----------------|-----------------------|---------|
| 1. 泌尿器科的血尿について | 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科    | 二口芳樹    |
| 2. 内科的血尿について   | 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長  | 富田正郎    |
| 3. 蛋白尿について     | 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 | 栗原孝成 先生 |

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025(直通)

## 第223回 月曜会(無料) (内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年9月11日(月)19:00～20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診察で遭遇した興味ある症例の検討を行います。

「第1症例 繰り返す後頸部痛の1例」

国立病院機構熊本医療センター総合診療科医長

辻 隆宏

「第2症例 全身多発膿瘍を生じた肺炎球菌感染症の1例」

国立病院機構熊本医療センター救命救急科

江良 正

2. ミニレクチャー「入院加療が必要となったBasedow病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

渡邊拓郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

## 第156回 救急症例検討会 (特別講演)

日時▶平成29年9月20日(水)18:30～20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「今こそ、災害医療を考える」

福岡大学 救命救急医学講座教授

石倉宏恭 先生

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第189回 三木会(無料) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成29年9月21日(木)19:00～20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「神経内分泌腫瘍における糖尿病の病態」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科

牛嶋真也

2. 「SASは万病の元～早期発見のコツ～」

よしむらクリニック 内科・糖尿病内科 院長

吉村良平 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501(代表) 内線5441

# 2017年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修センターホール	研修室
1日(金)	18:30~20:30 血液研究班月例会	
2日(土)	14:00~16:00 第278回 熊本県滅菌消毒法講座 「周術期にかかわる職員のための医療関連感染対策」	
3日(日)		
4日(月)		
5日(火)		
6日(水)		
7日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「末梢血管疾患」 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本 和輝	
8日(金)		
9日(土)	15:00~17:30 第4回 診断と治療—最新の基礎公開講座— 「CKD診断のために—血尿・蛋白尿の基礎—」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 魚返外科胃腸科医院 院長 魚返 英寛 先生 1. 泌尿器科的血尿について 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医師 二口 芳樹 2. 内科的血尿について 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎 3. 尿蛋白について 熊本大学大学院生命科学研究部腎臓内科学助教 桑原 孝成 先生	
10日(日)	8:00~12:30 第16回 熊本PEECコース	
11日(月)		19:00~20:30 第223回 月曜会(内科症例検討会)(研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
12日(火)		
13日(水)	18:00~19:30 第106回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
14日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「急性大動脈解離」 国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長 岡本 実 19:00~20:30 熊本がんフォーラム	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
15日(金)		
16日(土)		
17日(日)		
18日(月)		
19日(火)	19:30~21:00 第51回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「施設や在宅でできる嚥下リハ」 熊本保健科学大学言語聴覚学専攻講師 宮本 恵美 先生 熊本保健科学大学理学療法学専攻准教授 久保 高明 先生	
20日(水)	18:30~20:00 第156回 救急症例検討会・特別講演 「今こそ、災害医療を考える」 福岡大学 救命救急医学講座教授 石倉 宏恭 先生	★今月の注目 事前の参加のお申し込みは必要 ありませんので、ご自由にお越 しください。
21日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「胸部X線の見方」 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 名村 亮 14:00~15:00 第54回 市民公開講座 「ストップNo卒中」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 西 晋輔	
22日(金)		
23日(土)		
24日(日)		
25日(月)		
26日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
27日(水)		
28日(木)	8:15~8:45 二の丸モーニングセミナー 「脳神経外科の救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 坪田 誠之 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
29日(金)	19:00~21:00 第32回 シンポジウム—医療の将来— [日本医師会生涯教育講座2単位認定] 「『地域包括ケア』の現状と将来展望」 ～地域包括ケアにおける医療ネットワークの活用～ 座長:熊本県医師会 理事/林整形外科医院 院長 林 邦雄 先生 1. 急性期病院の立場から 国立病院機構熊本医療センター 副院長 清川 哲志 2. 地域医療の包括ケア病院の立場から 医療法人 室原会 理事長/菊南病院 院長 室原 良治 先生 3. 在宅医療の立場から 医療法人ソレイユ ひまわり在宅クリニック 理事長・院長 後藤 慶次 先生 4. 行政(県)の立場から 熊本県健康福祉部健康局長 田原 牧人 先生	18:30~20:30 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
30日(土)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)